

## 沈降

水などの液体に分散している粒子を重力のもとで静置すると、粒子は液体よりも密度が大きい場合、上から下（重力が働く方向）に降下し、粒子の濃度が上から下に向かって高くなる。この現象を沈降という。粒子が小さくなると、液体分子が不規則に粒子に衝突するために起こるブラウン運動の作用が大きくなり、沈降しにくくなる。より小さい微粒子を沈降させるには、遠心機を用いて重力よりはるかに大きな遠心力を加えることで可能となり、密度の異なる微粒子や高分子等を分離・分析するために広く使われている。

（西村）